

情勢報告

JA 土佐あき吉良川支所管内の施設野菜生産農家全戸が天敵を導入



‘土着天敵おるよ’

ナス部会およびピーマン部会では12月3日、合同部会が12名（総勢16名）の参加で開催された。両部会は22園芸年度から全戸が土着天敵（タバコカスミカメ、クロヒョウタンカスミカメ）を活用した病害虫防除に取り組んでおり、今日は農薬の使用等について指導を行った。初めて土着天敵を使った生産者からは、『はじめは大丈夫だろうか？と心配したけど、害虫の発生もなく、良かった』という声があがっていた。土着天敵を使ったIPM技術を成功させるため、今後も定期的に部会を指導していく。

ナス新品種「土佐鷹」の普及推進の取り組みを協議

23園芸年度の「土佐鷹」推進のために農家代表、関係機関（JA、集出荷場、園芸連、農業振興センター）が集まり、12月4日に「土佐鷹普及推進協議会」を開催した。

23園芸年度の面積拡大のためにどのような取り組みを行うか、次の事項について協議した。①各地区での推進説明会の実施および関係機関の取り組み方法の確認と連携、②産地が推進するということをもPRするためにポスターやチラシの作成、③「土佐鷹」への疑問に対しての問答集の作成と関係職員への配布、④種苗業者を増やすためにJA土佐あきとして園芸連に働きかける、ことが決定された。農業振興センターとしては、決定された項目についてJAに協力して活動を支援する。

生キャラメルづくりは、意外と簡単！おいしいので、アレンジして作りたい！！



12月7日に中芸地区農漁村女性グループ研究会員25名が愛媛県今治市を訪問した。地元で有名な生キャラメル製造技術を習得し、当方の地場産品の開発に役立てることを目的に実習を行った。2カ所の直販所研修の後、現地の農漁村女性グループ員2名の指導で、生キャラメルづくりに挑戦した。参加者からは「こんなに簡単にできると思わなかった」「今度のイベントに出してみたい」等の声があがった。農業振興センターは今後も加工技術研修を企画し、当グループ員の活動の支援と地産地消を推進する。

こうち型集落営農にかかる先進地視察研修の実施



活発に意見交換を行う参加者

農業振興センターでは、12月8日に20年度よりこうち型集落営農の取り組みを進めている香美市香北町「谷相地区集落営農組合」の先進地視察研修を実施した。

当日は、管内でこうち型集落営農の取り組みを進めている奈半利町大原・西ノ平集落及び北川村久府付集落の他、役場やJA職員など18名が参加し、「谷相地区集落営農組合」の取り組み内容や、集落営農を進めていく上での課題などについて意見交換を行った。

今後は研修で学んだ内容を参考に、管内の両集落営農組織や関係機関とともに集落営農組織の設立や活動支援を行っていく。